

来週の「売り物記事」はこれ



2017年5月19日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

燃え尽きるまで——加治前竜一の野球人生

21日(日)



21日の「S ストーリー」は、プロ野球・巨人で2008年に史上初の「プロ初打席サヨナラ本塁打」を放った加治前(かじまえ) 竜一(りゅういち) 外野手(32) =写真=を取り上げます。

鮮烈なプロデビューを果たした加治前でしたが、その後は活躍できず、長い2軍生活を送った末に巨人から戦力外通告を受けます。野球を続けたい一心で社会人野球の三菱重工長崎(長崎市)へ移籍しましたが、ここも昨年限りで休部し、現在は三菱日立パワーシステムズ(横浜市)でプレーをしています。

近年、プロから社会人野球の世界に移る選手は珍しくありません。しかし、仕事をしながら野球をする生活サイクルやプロほど恵まれていない練習環境に戸惑い、思うように活躍できない選手もいます。そんな中、元プロの加治前は三菱日立パワーシステムズの精神的支柱としてチームを引っ張り始めています。

今年も都市対抗野球シーズンが本格化するのを前に、白球を追い続ける加治前の野球人生を描きます。筆者は西部運動課の角田直哉記者です。



豪華寝台列車よりもおすすめ

「安い」「絶景」鉄道の旅

夕刊特集ワイド 22日(月)



「ななつ星 in 九州」「トランススイート四季島」……JR各社の豪華寝台列車が話題です。贅を尽くした設備、シェフが腕をふるった料理など、まさに「憧れの世界」です。とはいえ、1泊数十万というそのお代は、庶民には「遠い世界」でもあります。百円玉や千円札で買えるお安い切符で、豪華列車にも負けない満足感が得られないものか。鉄道に詳しいジャーナリストや写真家らに、おすすめの「絶景路線」を紹介してもらいました。

ドキュメント 保育所のリアル

1面23日(火)

「しごと」をキーワードに、記者が対象に密着して「現場」から報告する大型ドキュメント企画が始まります。第1部は

記者が東京都文京区の認証保育所「グローバルキッズ春日園」で働く保育士と子供を預けている保護者たちを徹底的に取材。求人難に悩む保育園や仕事と家庭の両立に苦慮しながらも精いっぱい生きていく姿を15回にわたってお届けします。



戦国時代のスタミナドリンク

くらしナビA面24日(水)



織田信長、豊臣秀吉、徳川家康ら戦国武将は陣中でみそを食べ、健康を維持していました。専門家は栄養たっぷりなことから「戦国時代のスタミナドリンク」と呼んで評価しています。みそを火であぶっただけのものから、丸めてお湯で溶いてみそ汁にしたりレシピはさまざま。オリーブ油でいためるなど、忙しい現代人にもぴったりで、健康寿命を延ばしてくれそうな料理を紹介します。

雑草を生ける

くらしナビA面 23日(火)



初夏の日差しを受けて道ばたに生い茂る草花は、邪魔だと思えばただの雑草ですが、よく眺めると個性があります。東京・銀座の「野の花司」で生け方の教室を持つ小森谷厚さんに、どのように生ければよいのか聞いてみました。器はなんでもよく、自生する姿をお手本に。小森谷さんは「自然の環境の刻印みたいなものがある、一つ一つ姿が違う」と魅力を語ってくれました。

男の気持ちをたずねて



おんなのしんぶん 22日(月)

病弱の妻が肺の病気になり、医者からかわいがっているインコのピーちゃんを「処分しなさい」といわれた横浜市の永井利一さん(81)。妻と二人の老後の暮らしでは「ピーちゃん、おはよう」としかしゃべらなくても、家族も同然。涙が出るほどショックを受けましたが、泣く泣く購入した小鳥店に預けることに。しかし、思いがけない運命がピーちゃんを待ち受けていたのです……。



PKOと国際貢献

南スーダンPKOに参加の自衛隊が撤収完了へ

オピニオン面 [論点] 24日(水)



南スーダンの国連平和維持活動(PKO)に派遣されていた陸上自衛隊の最終部隊が撤収し、27日に帰国します。これにより、海外で活動している日本のPKO部隊はなくなります。撤収の判断やタイミングは良かったのでしょうか。戦争放棄と戦力不保持をうたった憲法9条の改正を巡って国論が割れる中、日本の「顔」が見える国際貢献のあり方を考えます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

連載「飛躍の源流～冬季競技 育成の今」

23日付朝刊から5回

来年2月の平昌(ピョンチャン)冬季五輪を控え、冬季競技への注目が高まっています。しかし冬季競技は取り組める地域や施設に限られ、日本ではなじみの薄い競技も少なくないため、子供たちが新たに挑戦できる環境作りや、世界で活躍できる選手の育成には多くの苦勞があります。

今回の連載では、保護者も指導者や審判の資格を取得するなど協力して子供たちを育てているフィギュアスケートのクラブ、子供向けのスクールを開設して国内トップ選手らが指導を担うスピードスケートの実業団チームや、カーリング、スピードスケート、ノルディックスキー複合などの前向きな取り組みを紹介し、世界へと飛躍する選手が育つ「源流」の様子を報告します。



読み解きワード・薬価

医療・福祉面 24日(水)



抗がん剤・オプジーボやC型肝炎治療薬など、高額薬が次々と登場し、薬の値段への関心が高まっています。高額薬が医療費押し上げの要因になっているとも言われ、政府は薬価の見直しを進めています。

「読み解きワード」では、薬の公定価格「薬価」について、どのようにして決まるのかや、新薬(先発薬)とジェネリック(後発薬)の違いなどについて図表を使って解説します。

毎日新聞主催「ともに 2020 バリアーゼロ社会を目指して」

『点字毎日』創刊 95 年記念シンポジウム ご案内

毎日新聞社オリンピック・パラリンピック室
室長 野村隆宏

拝啓 平素は毎日新聞社に多大なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
このたび、毎日新聞では、『点字毎日』創刊 95 年記念シンポジウムを開催いたします。

点字毎日は、1922 年に発刊されました。国内唯一の点字新聞として、視覚障害者に必要な情報を提供し続け、社会へ開かれた窓としてその役割を果たし続けています。
本シンポジウムは、バリアーゼロ社会を目指したキャンペーン「ともに 2020」の一環として開催いたします。障害者や高齢者にとってバリアー（障壁）が積極的な社会進出を阻んでいると考えます。東京 2020 オリンピック・パラリンピックを控え、誰もが生き生き暮らせる「バリアーゼロ社会」を目指し、みんなが助け合いながら生きる共生社会の実現を目指します。

本シンポジウムが「バリアーゼロ社会」に向けた一歩になることを願っています。
ご多忙の中とは存じますが、ご来場くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

日時 2017 年 5 月 31 日（水） 18 時開演（17 時半開場）
会場 毎日ホール（東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 東京メトロ「竹橋駅」直結）
プログラム

- ・ディスカッション ユニバーサル社会に向けた紙面企画「ともに 2020」取材記者報告会
- ・特別講演 全盲の落語家・桂福点さん創作落語「おちない噺」お披露目
- ・ゲストトーク 競泳元女子日本代表・伊藤華英さん「視覚障害ランナーと結ぶ絆」

ご来場を希望される方は、社名・氏名・参加希望人数を明記の上、貴社担当者もしくは毎日新聞社 鈴木大介 (suzuki-d@mainichi.co.jp) までご連絡をお願いいたします。

【お問い合わせ】毎日新聞社オリンピック・パラリンピック室 鈴木大介
電話:03-3212-2908 FAX:03-3211-2908 suzuki-d@mainichi.co.jp



毎日新聞主催

「ともに2020 バリアーゼロ社会へ」

『点字毎日』創刊95年 記念シンポジウム

参加のご案内



国内唯一の点字新聞である『点字毎日』が5月11日、創刊95年を迎えたのを記念して、31日、毎日ホール(東京都千代田区)で、記念シンポジウムを開催します。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてバリアーゼロ社会実現を目指す、毎日新聞「ともに2020」キャンペーンの一環として開催します。

当日は、「ともに2020」を取材した記者によるディスカッション「視覚障害者を取りまく現状と今後」や、全盲の落語家・桂福点さんの創作落語「おちない噺」お披露目、競泳元女子日本代表の伊藤華英さんによるゲストークを開催します。入場は無料です。

皆様のご参加をお待ちしています。

【開催概要】

●日時 5月31日(水)18時開演(17時半開場)

●場所 毎日ホール

住所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1

アクセス:東京メトロ東西線「竹橋駅」直結

●プログラム

ディスカッション

「ともに2020」取材記者報告会
～視覚障害者を取りまく現状と今後～

特別講演

「おちない噺」お披露目
全盲の落語家・桂福点さん

ゲストーク

「視覚障害ランナーと結ぶ絆」
競泳元女子日本代表伊藤華英さん

・募集人数

150名



参加をご希望される方は、専用応募フォームから。

<https://www.mainichi-ks.jp/form/mainichi1705/>

※締め切りは5月26日(金)、応募多数の場合は抽選の上、参加証を送ります。

【お問い合わせ】シンポジウム事務局 03・6265・6817(平日10～17時)

主催:毎日新聞社